

【防災メモ】

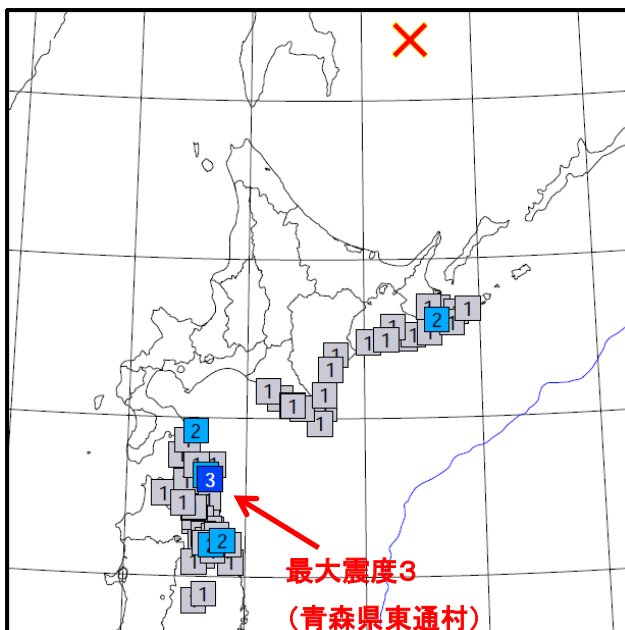
～異常震域について～

一般に、地震の揺れは震源に近い場所ほど強く、遠い場所ほど弱くなります。しかし、深い場所で発生する地震（深発地震）では、震源に近い場所よりも遠く離れた場所の方が強く揺れる場合があります、この現象を「異常震域」と呼びます。

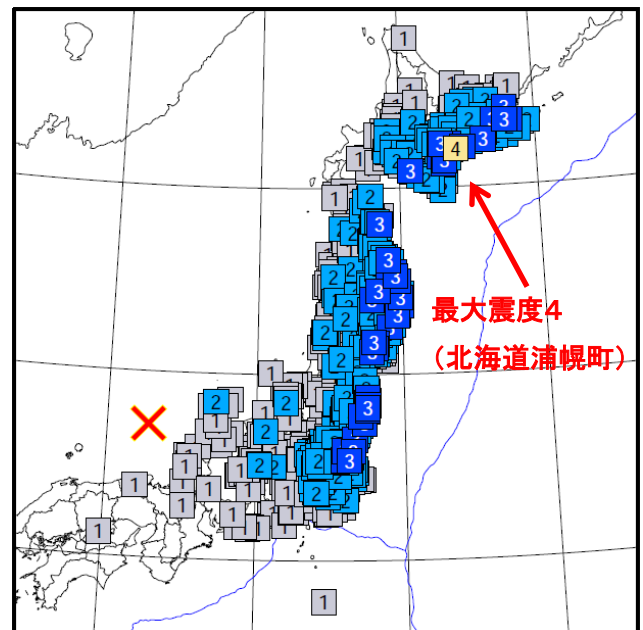
日本周辺の深発地震の場合、震源に近い側の地表に到達する地震波は、震源直上の地震波が減衰しやすい領域を通る一方、太平洋側の地表に到達する地震波は、地震波が減衰しにくい海洋プレートを通ります。その結果、震源から遠く離れた太平洋側で震度が大きくなります（図1、図2）。



図1 異常震域模式図



オホーツク海南部の地震の震度分布図
(2011年12月10日 M5.7 深さ431km)



京都府沖の地震の震度分布図
(2007年7月16日 M6.7 深さ374km)

図2 異常震域の事例（×印は震央、数字は震度を示す）

異常震域を生じるような深発地震で津波が発生することはまずありませんが、被害の可能性がないわけではありません。地震の規模が大きくなれば震源から離れていても強く揺れるだけでなく、長周期地震動（2021年10月防災メモ参照）の影響を受ける可能性があることにも留意が必要です。